



九条の会

九条の会奈良県ネットワーク運営委員会
発行責任者 佐川愛子
✉ nara9jyonokai@gmail.com
☎ 090-9885-9756
<http://blog.goo.ne.jp/9naranet>
<http://www.nara9jyonet.com>
11号 2017年10月4日発行

「安倍9条改憲 NO!全国市民アクション」が結成、3000万人署名の提起を受けて、九条の会としても組織として参加し、憲法九条を守るために署名活動を行います。街頭での訴えに大きなパネルを作ったり、独自に市民レベルの呼びかけ人を募ったり、全戸ビラ配布や全戸署名を計画したりと成功のための取組も始まっています。安倍九条改憲（壊憲）の中身を学習し欺瞞性と危険性を広げ憲法九条を市民の力で守りましょう。

安倍首相は、日本国憲法施行70周年の5月3日、あえて挑戦するように新たな改憲の提言を行いました。今回の安倍改憲は、9条1項、2項を残しながら、新たに自衛隊保持を憲法に明記することで、9条を根本的に変質させ日本を「戦争する国」に転換しようという重大なねらいをもっています。森友、加計学園にみられる行政の私物化、自衛隊日報隠し、共謀罪法案の強行採決などとどまることを知らない悪政に対する怒りが噴出し、都議会議員選挙で安倍自民党は大敗し、その後も安倍政権は支持率の低下が続いていますが、首相は改憲を強行する決意を変えていません。憲法と日本の進路は今、戦後最大の岐路を迎えています。

安倍改憲を広範な共同で阻もうと、総がかり行動実行委員会をさらに広げ、19名の発起人の訴えに基づき「安倍9条改憲NO!全国市民アクション」が発足し、3000万署名を軸に安倍改憲を阻む行動が呼びかけられています。

九条の会は、結成以来憲法を改変するさまざまな企てに反対する行動の先頭に立ってがんばってきましたが、共同の行動のよびかけに名前を連ねることは控えてきました。9人のよびかけで発足した九条の会の役割は、あくまで全国7000余にのぼる九条の会の交流や連絡調整に当たることであり、その多様な活動を縛ることは避けたいという思いからでした。しかし、安倍改憲の企てを阻むことは、2004年に九条の会が発出したそもそもの目的にほかなりません。そこで、会事務局は、よびかけ人と世話人の了解もいただいて、「安倍9条改憲NO!全国市民アクション」に組織として参加し、他団体と協力して活動する決断をしました。安倍改憲を阻むため、全国市民アクションの一員として全力をあげる決意です。

この重大な局面に立って、安倍改憲を阻む大きな共同の闘いを起こすため、全国の九条の会みなさんに、以下の3つの行動に立ち上がることを訴えます。

- 1 すべての会が、学習会を持ち、市民とともに、安倍9条改憲の危険性を改めて確認しましょう。
- 2 全国市民アクションが掲げる3000万署名を達成するために、会毎に目標をたて、戦争法廃止2000万署名の経験を生かしながら、全国津々浦々の草の根で宣伝と対話を広げ署名の輪を広げましょう。
- 3 それぞれの地域で他団体と協力し合って市民アクションを立ちあげ、安倍改憲阻止のための市民アクションの取り組みに積極的に参加し、共同の輪を広げましょう。

橿原文化会館小ホールにおいて「奈良市民連合スタディ&キックオフ集会」が開催されました。主催者の奈良市民連合共同代表の溝川悠介氏が挨拶され、野党共闘を私たち市民運動の力で実現させましょうと強調されました。記念講演「今求められる市民運動の役割と課題」と題して上智大学・中野晃一教授が講演されました。共謀罪ば国会では自公内閣を市民と野党共闘の力で追いつめた。しかし、相手も私たちの運動を追いつめてきている。力比べの状況となっている。去年の参議院選挙では野党共闘の成果として32ある1人区で11人の議員を当選させた。31%の成果であった。比例代表と合計して、議席全体でも1/3以上の議員が当選した。したがって、次期の参議院選でも1/3以上の当選者が実現すれ、自公内閣を2/3以下の状態にできると述べられた。また、維新や小池新党を使って、自民の別働隊として野党共闘を切り崩す役割を果たしている。安倍政権を退陣に追い込むには市民と野党共闘の発展が重要と強調された。奈良市民連合事務局の池本昌弘氏から、3000万人署名を成功させるため、奈良県で30万人の署名を集めましょうと訴えられた。平日の夜の集会にも関わらず、会場がほぼ満席の280人が参加されました。市民と野党共闘を実現された中野先生を中心とした学者先生方の大きな役割に感動をいただいた講演でした。

9月19日(火)11時-12時に生駒駅において「**憲法改悪許さない生駒共同センター**」による「**19の日行動**」が行われました。今日は安保法制(戦争法)強行可決から丸2年目の日であり、おりから安倍首相が森友・加計・南スーダン日報などの疑惑に何一つ応えないで、臨時国会冒頭解散を狙っているとのニュースが流れ、「黙っておれない」と27名もの多くの人々が参加。「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名(3000万人署名)」の生駒でのキックオフでもあり、発起人19氏の名前を入れた市民アクションのチラシを畳1畳分に拡大して、コンコースの中央でかざしていると、立ち止まって読む人も何人かいました。北朝鮮の核ミサイルの危険な挑発はもとより許されませんが、不人気政権のトランプ大統領や安倍首相は、「外敵」の挑発を利用して「対話より制裁・軍事威嚇」を叫び、政権の起死回生と軍国主義化を狙っているように思えてなりません。訴える方も署名に応える人も熱が籠っているようで、中には「安倍さんはどうしようもない!」と怒りを顔に露わに出す人もいました。1時間で署名は「安倍9条改憲NO!」90筆、「核兵器廃絶ヒバクシャ国際署名」70筆でした。



橿原市9条の会・12周年記念講演会

10月1日、講師のアーサー・ビナードさんをお招きして講演会を開催。現在の急変した政局に的確なお話をユーモアを交えて講演。200年前に誕生した米国憲法をトランプ大統領が絶賛したこと、北朝鮮が行うと予告した太平洋上での核実験の影響について、その危険性に為政者として初めて言及した報道があったことを紹介。現在の日本の状況では、日本国憲法が危険にさらされ、200年後も存在するか心もとないと懸念。現在のマスコミを批判、特にNHKのニュースは真実が隠ぺいされている。国民がマスコミの報道する本質を見抜く力量の大切さも強調されました。参加者は約170人と久しぶりの多くの参加で盛会となり、カンパも多く寄せられました。

香芝九条の会が2006年7月に発足して11年。

記念する講演会が9月30日(土)午後1時半から、香芝市ふたかみ文化センターで、200名を超える参加者で大盛会でした。冒頭、代表世話人に寺沢勝子弁護士が開会にあいさつを行い、続いて、フォークグループバンド「いきあたり ぼったり バンド」が、昭和のフォークソングを披露。前川清成弁護士の挨拶の後、フリージャーナリストの西谷文和氏は、「世界平和に果たした憲法九条の役割」と題して記念講演を行いました。南スーダンで現地取材した最新映像を駆使した講演は、「南スーダンの現状がよくわかった。」「戦争でたくさん子どもや市民が犠牲になっているのを見て、世界全体が平和をねがいます」「何年間ぶりの感動でした。九条の大切さも再認識できました」「安倍政権をつぶしていきたい」などの感想が寄せられました。西谷氏は講演の結びで、安倍暴走政治をストップして、憲法九条を守るためには、市民と野党の共闘、希望の党から排除されたリベラルな人々との共闘が求められている。と述べられました。香芝九条の会では、この講演会にむけて、中学校区単位での世話会を開催、賛同者を広げることも重視、100名を超える新賛同者を迎えました。3000万署名をスタートさせ、この講演会会場でも39筆が集まりました。

奈良広陵九条の会では、安倍内閣と自民党の改憲の動きが一段と強まり、現実味を帯びてくる中で、改めて日本国憲法を読み直し、

具体的条文に沿ってその内容をしっかりつかみ直すことが必要と考え、「日本国憲法読み合わせ勉強会」を開催することにしました。対象は世話人以外にも参加を呼びかけ、新しい世話人を増やすことも目標にしています。第1回(前文、第1章)を2月25日(土)に開催、その後約2カ月に1回のペースで開催し、8月19日(土)に第4回勉強会(第3章後半)を行いました。毎回12~13人が参加。毎回の勉強会では、特別の講師は呼ばず、現憲法と自民党改憲草案(2012年発表)の両方の読み合わせを基本に、リポーター(参加メンバー)によるレポートも交えてそれぞれが意見を出し合い、現憲法の内容とそれを自民党改憲草案がどう変えようとしているのか、その狙いは何かなどについて理解を深めるようにしています。次回(第5回)は10月28日(土)開催予定です(第3章残り、第4章・国会)